

研究課題（テーマ）		看護師の就業意識と心理的安全性及びバーンアウトが就業継続意思に及ぼす影響	
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	看護学科	助教	室谷 寛
分担者	看護学科	教授	片田 裕子
研究結果の概要			
【背景・目的】 現在、我が国では高齢化や慢性疾患患者の増加に伴い、2040年には医療需要のピークが到来すると予測されている（厚生労働省，2022）。一方で、2022年度における看護師（正規雇用）の離職率は11.8%（前年差+0.2%）と依然として高止まりであり（日本看護協会，2024）、さらに個人の働き方や仕事に対する価値観の多様化も進んでいる（厚生労働省，2023）。そのため、これらの変化に対応できる職場環境の整備が喫緊の課題である（日本看護協会，2021）。しかし、そのための具体的なマネジメントに関するエビデンスは不足しており調査が急務である。そこで本研究では、看護師の就業意識（組織コミットメント・サステナブルキャリア）と組織要因（心理的安全性・バーンアウト）が就業継続意思へ及ぼす影響について明らかにすることを目的に調査を行った。本研究を行うことで、就業意識と組織要因を踏まえた包括的なマネジメントに関する知見が得られ、看護師がいきいきと働き続けられる組織づくりに貢献できると考える。 【方法】 全国の病院の病棟に勤務する看護師を対象に、基本属性、心理的安全性、バーンアウト、組織コミットメント、サステナブルキャリアの内容で構成した無記名自記式質問紙調査を郵送法にて行った。調査用紙の回答は対象者の自由意思に基づくものとし、看護師個人の返信により回収した。本研究は富山県立大学「人を対象とする研究」倫理審査部会の承認（受付番号：看護第 R6-38 号）を得て行った。 【結果】 現在、調査用紙の回収中であり、データ入力・分析を行っている。			
今後の展開			
回収した調査用紙のデータ入力・分析を進める。本研究成果は第 45 回日本看護科学学会学術集会において発表すると共に論文投稿する予定である。			